

標準施工仕様書

S u n フロア 表面強化材

目次

1. 本書取り扱い注意事項	p. 2
2. 適用範囲	p. 5
3. 工法概要および使用材料	p. 5
4. 施工上の注意事項と予測される不具合	p. 6
5. 施工工程	p. 9
6. 施工上の留意点（使用材料の配合、施工方法等）	p. 10
7. 安全対策	p. 11

2025年 12月

エーエスペイント株式会社

事業推進本部

1. 本書取り扱い注意事項

- ・ 「Sunフロア 表面強化材 標準施工仕様書（以下、本仕様書と略称）」はエーエスペイント株式会社が標準とする施工現場における仕様であり、諸条件により本仕様書の記載内容と異なる場合があります。
- ・ 本仕様書は案内なく改訂する場合がありますので、ご使用の際にはお手元の資料が最新版であることをご確認ください。
- ・ 施工の際には本仕様書をよく読み、正しく施工してください。
- ・ 本仕様書に記載がない事項、変更および訂正などの事態が生じた場合は、その都度関係者と協議し承諾を得た上で施工してください。

2. 適用範囲

本仕様書は、コンクリートまたはモルタル下地への塗り床工事施工に適用する。

3. 工法概要および使用材料

Sunフロア 表面強化材は、ケイ酸塩を主成分とするコンクリート表面強化材である。

無機質の水系材料でコンクリート表面に塗布することにより浸透し、セメント成分と反応してコンクリート表面を強化する働きがあり、下記の特徴がある。

- ・ コンクリート表面からの粉塵防止
- ・ 清掃が容易
- ・ 透水、透油性の向上
- ・ 耐摩耗性の向上
- ・ 中性化の抑止

<使用材料>

使用材料は消防法における危険物に該当しますので、消防法および地方自治体（当道府県、市町村）の条例により保管方法が定められています。

取り扱う材料の保管方法など事前にご確認ください。

製品名	荷姿	危険物分類	指定数量
Sunフロア 表面強化材 (水系タイプ)	18 kg／缶入	非危険物	—

4. 施工上の注意事項と予測される不具合

施工上の注意事項と予測される不具合を下記に示す。なお、以下は最重要注意事項を抜粋したものである（注意事項の詳細は施工仕様書の各項目を参照）。

注意事項	予想される不具合
・ 材料は 5～40℃の直射日光の当たらない場所で密封して保管する。	凍結、結晶化
・ 素地表面のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10%以下（ケット科学社製 CH-2 型で測定した場合）、または 5%以下（ケット科学社製 Hi500 シリーズで測定した場合）の条件で塗装する。	仕上がり不良
・ 下地コンクリートが新設の場合は 2 週間以上養生する。	吸い込みムラ 仕上がり不良
・ 下地コンクリート表面のレイタンス、エフロレッセンスなどの粉化物、ぜい弱部はポリッシャー等を使用し十分に除去する。	吸い込みムラ 仕上がり不良
・ 施工可能な温度域（5～35℃）を守る。	凍結、 仕上がり不良
・ 材料はジョウロ等にて散布し、ブラシやモップ等にて均一に塗布する。（強アルカリ性のため取扱注意）	吸い込みムラ 仕上がり不良
・ 塗布量を一定にする。	吸い込みムラ 仕上がり不良
・ モップ等にて余分な材料をふき取る。くぼみ部分等に溜まった材料は、乾燥前に塗り広げる。	白化
・ 余剰排水は強アルカリ性であるため廃棄に注意する。	環境汚染
・ 養生は 24 時間以上とする。乾燥後、歩行は可能であるが、水がかかると樹脂が溶出する可能性がある。	仕上がり不良
冬期施工時の注意事項	予想される不具合
・ 雰囲気温度 5℃未満では施工しない。	仕上がり不良

5. 施工工程

標準 施工日	工程	使用材料等	使用量 (kg/m ²)	施工方法	施工間隔 (23℃)
1 日目	下地研掃	ポリッシャー	—	サンドペーパー#40 程度を取付け全面研掃する。	—
	塗布※1	S u nフロア 表面強化材	0.05 ～0.2	ジョウロ等で散布後、ブラシやモップ等で塗り広げる。	30 分程度
	水拭き	モップ等	—	余剰材料を回収する。	※2

※1：下地コンクリートの状態により使用量が前後する場合がある。

※2：養生時間目安（軽歩行）24 時間以上

6. 施工上の留意点（使用材料の配合、施工方法等）

6-1. 下地

- ・下地は十分乾燥すること。
素地表面のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10%以下（ケット科学社製 CH-2 型で測定した場合）、または 5%以下（ケット科学社製 Hi500 シリーズで測定した場合）
- ・油類、塗膜、汚れ、脆弱部等がある場合除去する。
- ・下地のクラックや欠損部は、事前に補修する。（別途工事）
- ・養生に保湿シートを用いる場合、施工 1 週間前までには撤去し乾燥させる。

6-2. 下地処理

- ・下地コンクリートをサンドペーパー#40 を付けたポリッシャー、ディスクサンダーを用いて全面ムラなく研掃する。
- ・下地はホウキ、掃除機等にて十分清掃する。（塵埃が多いと仕上がり不良になる）

6-3. 塗布

- ・S u nフロア 表面強化材をジョウロなどで散布し、直後にブラシやモップ等にて塗り広げてコンクリート表面に浸透させる。（使用量目安：0.05～0.2 kg/m²）
- ・材料溜まりがある場合は白化の原因となるので、乾燥前にブラシやモップ等で塗り広げる。
- ・吸込みが著しい場合は、再度追い塗りをする。
- ・強アルカリ性の水溶液であるため、眼や皮膚に付着しないように保護具を着用する。

6-4. 余剰材料の水拭き

- ・施工後 30 分程度経過後、濡れモップ等で十分に水拭きし、余剰材料を回収する。

6-5. 養生

- ・施工後は自然乾燥し、24 時間を目安に養生する。
- ・閉め切った部屋等では、送風機等を使用し乾燥を促進させる。

7. 安全対策

- ・樹脂の保管場所および配合場所では火気等（喫煙含む）は使用せず、更に作業場も火気等（喫煙含む）は使用しない事。
- ・消火器の設置
粉末炭酸ガス消火器（ABC 消火器）を作業場に設置する。
- ・作業者は安全帽・安全帯を着用する。
- ・取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク，保護手袋，保護メガネ，前掛け等を着用する。
- ・単独行動は行わず、作業前後必ず責任者に報告する。
- ・作業場所には「作業中」「通行止」「火気厳禁」の表示をする。
- ・作業場の換気を十分行う。
- ・その他
 - －樹脂等の保管場所は、冷暗所または火気のない風通しのよい日陰等とする。
 - －作業場には必要以上の樹脂は持ち込まない。
 - －肌に樹脂等が付着した場合は十分水洗いし、必要に応じて手当とする。
 - －喫煙は所定の喫煙室でする。
 - －その他、危険と思われる行為は責任者と相談の上決定する。

以上